

授業科目

内科学II

担当教員名 鈴木 健司	対象学年	2	対象学科	作業・言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	○	

授業の概要

内科学Iで学習したことを踏まえ、各臓器・器官系の主な病気について、診断および治療の概要を修得する。高齢者にみられる病気とその対策、東洋医学の現状と現代医療にたいする役割について概要を理解する。

授業の目的

内科学IIでは、臨床の現場で遭遇する機会の多いあるいは見逃してはならない重篤な病気を内科学Iで学習したことと関連づけて理解すること。

老年疾患の病態把握および治療が、通常の内科的治療とは異なる面のあることを理解すること。

東洋医学が近代医学の立場からみて科学的根拠があること、これからの新しい医学・医療に果たす役割を理解すること。

学習目標

1. 各臓器・器官の主な病気について、特徴的症候および治療を記述する。
2. 中毒性疾患では、依存症・環境汚染とを関連づける。
3. 高齢者においてよくみられる病気の特徴とその対策を記述する。
4. 東洋医学の主なエビデンスを記述し、これからの医療に対する役割を理解する。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	内科各論 1 循環器疾患 1 不整脈, 先天性疾患・後天性心疾患	講義	鈴木 健司
2	内科各論 2 循環器疾患 2 血圧異常, 心筋疾患, 心膜疾患, 大動脈疾患, 静脈疾患	講義	鈴木 健司
3	内科各論 3 腎泌尿器疾患 腎不全, 糸球体疾患, 全身疾患による腎障害, 尿路感染症, 尿路結石症	講義	鈴木 健司
4	内科各論 4 消化器疾患 1 消化管疾患 (食道・胃十二指腸・小腸・大腸), 機能的消化管障害	講義	鈴木 健司
5	内科各論 5 消化器疾患 2 肝疾患(急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変・肝臓癌・自己免疫性肝障害), 胆道疾患(胆石症・胆道炎・胆道癌) 膵疾患(急性膵炎・慢性膵炎・自己免疫性膵炎・膵臓癌)	講義	鈴木 健司
6	内科各論 6 呼吸器疾患 かぜ・肺炎, 閉塞性肺疾患, 血管性病変, 肺腫瘍	講義	鈴木 健司
7	内科各論 7 内分泌・代謝性疾患 視床下部下垂体病変, 甲状腺疾患, 副甲状腺疾患, 副腎疾患, 性腺疾患	講義	鈴木 健司
8	内科各論 8 血液・造血器疾患 貧血, 白血病, リンパ網内系疾患, 異常蛋白症, 出血凝固系異常	講義	鈴木 健司
9	内科各論 9 神経疾患 感染症(脳炎・髄膜炎), 神経変性疾患(認知症・パーキンソン病), 脳腫瘍, 筋疾患(筋ジストロフィー症)	講義	鈴木 健司
10	内科各論 10 感染症 (ウイルス感染症・細菌感染症・原虫症・寄生虫疾患)	講義	鈴木 健司
11	内科各論 11 中毒性疾患(薬物・嗜好品・重金属・工業製品など)と依存症・環境汚染 膠原病・自己免疫疾患 2 (膠原病とは)	講義	鈴木 健司
12	内科各論 12. 膠原病・自己免疫疾患 1 (古典的膠原病・膠原病類縁疾患)	講義	鈴木 健司
13	内科各論 13. 高齢者にみられる疾患と対策	講義	鈴木 健司
14	東洋医学 (2) 東洋医学のエビデンスと現代医療における役割	講義	鈴木 健司

15	まとめ 後期授業の重要事項の復習	講義	鈴木 健 司
----	------------------	----	-----------

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	なるほどなっとく！ 内科学	浅野嘉延	南山堂	2016年	6,000円+税	前期、後期使用します。
参考書	コメディカルのための専門基礎分野 内科学5版	北村 諭、菅間 康夫、 小林 淳	中外医学社	2014年	3,800円+税	
その他の資料						

評価方法

定期試験

履修上の留意点

オフィスアワー・連絡先

最初の講義の際にお知らせします。